

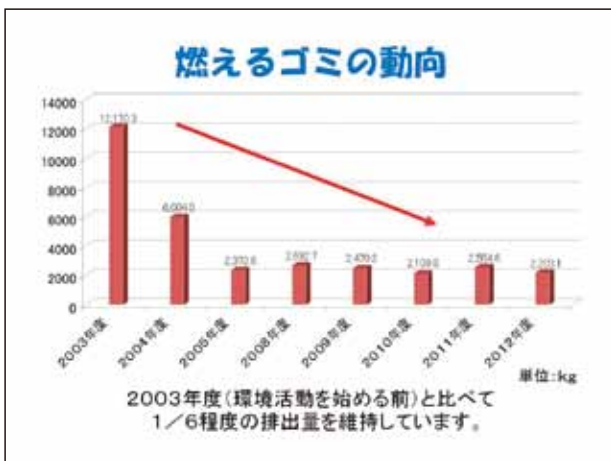


東京都立つばさ総合高等学校			
〒144-8533 東京都大田区本羽田 3-11-5 ☎ 03-5737-0151			
活動団体	ISO 委員会		
主な活動時間	休み時間や放課後	活動人数	59 人
最終審査会 発表生徒	弘中 初季、山口 雪奈	担当教諭	荘司 孝志、吉岡 大介

つばさ総合高校のゴミ処理について

【目的・展望】

つばさ総合高校は2004年3月にISO14001の認証を取得して、以来様々な環境活動を行ってきました。その目的は、私たちの活動を通して全校生徒の環境意識を高めようとするものです。たとえば今回発表する「ゴミ処理」についても、本校のゴミの削減と、全校生徒の環境意識を高めることを同時に目指しています。この活動は、2004年度より継続して行われています。現在のゴミの排出量は活動前に比較すると、ほぼ「6分の1」になり、その状態を毎年維持しています。今回は、つばさのゴミ処理活動の特徴を説明します。また、毎年ほぼ同じになってしまったゴミの排出量をさらに減らすために7月に行った「資源・ゴミの28分別」の結果も説明いたします。



【活動内容】

つばさ総合高校で行っているゴミの削減活動は、校内では「USO 800 (うそ八百)」というISO委員会の機関紙などで呼びかけたりします。また年に1回実

ゴミ削減のための活動・1
「今月の目標」(つばさ環境の日)
 毎月、環境に関する「今月の目標」を定めて、「つばさ環境の日」に呼びかけなどをします。
 この「目標」で、
 ★ゴミを増やさないための行動
 ★捨てるものを減らすための行動
 なども取り上げます。



ゴミ減量関係の「今月の目標」の例
 ●ハシは抜け！ ●マイボトルで涼しい夏を
 ●包装の少ない食べ物を買おう
 ●食べ残したらゴミになる ●紙は「紙資源」へ！

施する「高校生環境サミット」では本校のゴミ削減の発表や、実際の分別指導などを他の高校生に行うなどその広がりを目指しています。校内から出るゴミの量を減らすことを目的として様々な工夫がされていますが、次の4つの点から説明いたします。この4つの点はどこの学校でも取り組めることだと思います。ぜひ取り組んでみてください。1つでもやってみればいろいろなことが見えてくるはずです。

USO 800
 150委員会
 2013年 4月30日現在
 4,000名

紙 **ゴミ分別**
リサイクル

RECYCLE **プラ**

ゴミの分別を徹底しよう！ゴミの分別は、資源を有効活用し、環境を保護するために不可欠です。プラスチック、紙、金属、ガラス、燃やせるゴミ、燃やさないゴミ、資源物、燃やさない資源物、燃やさない資源物の分別を徹底しましょう。燃やさない資源物の分別は、燃やさない資源物の分別を徹底しましょう。燃やさない資源物の分別は、燃やさない資源物の分別を徹底しましょう。

「キラシの嵐」
「ゴミ」削減と目標



1. 燃やさない資源物の分別を徹底しよう！
 2. 燃やさない資源物の分別を徹底しよう！
 3. 燃やさない資源物の分別を徹底しよう！
 4. 燃やさない資源物の分別を徹底しよう！

(1) 教室にゴミ箱を置かない

教室のゴミ箱があると、何も考えずにゴミを捨ててしまいませんか。つばさでは教室のゴミ箱を置かず各階に2か所(各学年2ヶ所)ある「資源・ゴミステーション」と呼ばれる場所に捨てに行きます。その際、生徒や先生方は誰に言われるでもなく分別しています。不便になることで分別意識が高まります。習慣を変えることは難しいことですが、入学した時からそのようになっていたので、つばさの生徒たちにとっては当たり前のことになっています。

(2) 8分別を行っています

つばさでは、1. 紙資源、2. プラスチック資源、3. ビン、4. 缶、5. ペットボトル、6. 可燃ゴミ、7. 特殊ゴミ(金属、ゴム等)、8. 残飯の8分別を行っています。資源は資源の業者に、ゴミはゴミの業者と別々に渡しています。家庭から出る「燃えるゴミ」の中から、紙資源とプラスチック資源を抜き取ると考えてください。家庭からの燃えるゴミは、この方法で分別するとほとんどなくなってしまうと思います。この分別活動は、もちろん全校生徒が関わりますし、最終的には私たち ISO 委員が業者の方が困らないように1袋1袋、毎週木曜日に再分別しています。

(3) ゴミの排出量を計量しています

つばさではゴミの排出量を計量しています。ゴミが減ったのか、増えたのかを確認をするためですが、ゴミ業者の方は最初は嫌がったと聞いています。それまでは袋の中のゴミの重さに関わらず、1袋が7.5Kgと換算しての契約だったそうです。それでは「ゴミの削減」という言葉も意味がありません。業者と交渉した当時の ISO 担当者のおかげで測れることになったのです。すごいと思います。

(4) 地域への協力

つばさ総合高校は大田区の都南町会の敷地の中にあります。その町会は月に1回新聞などの資源回収を行っています。その日に、つばさの新聞や雑誌、ダンボールなども回収してもらいます。その際に私たちも一緒に地域を回り新聞などの回収に協力しています。

【成果・実績】

このような方法を継続することで、可燃ゴミの排出量は活動を開始する以前に比較して約「6分の1」になりました。しかし、この方法には問題もあります。例えば「最初はボランティアの生徒がゴミ処理を行っ

以上、いろいろなことを取り組んできましたが・・・

捨てるものを、もっと減らしたい

捨てるものの分別をして
ゴミの量を減らしたが、
捨てるもの全体も減らせ
ないだろうか。




- ・ゴミをもっと減らす
- ・リサイクルできるものもなるべく減らしたい

そこで「28分別」に挑戦

- ・大阪府堺市が家庭ごみの成分を調べるため、実験的に40分別をしたそうです。
- ・それをアレンジして、学校でもゴミ・資源を28分別して、どんな種類のものが多く捨てられているか調べることにしました。
- ・多く出ている資源・ゴミを特定し、それを減らす対策を取れば良いと思ったのです。

28分別の様子

6月の暑い中、学校で捨てられた1週間分のものを、3日かけて分別しました。

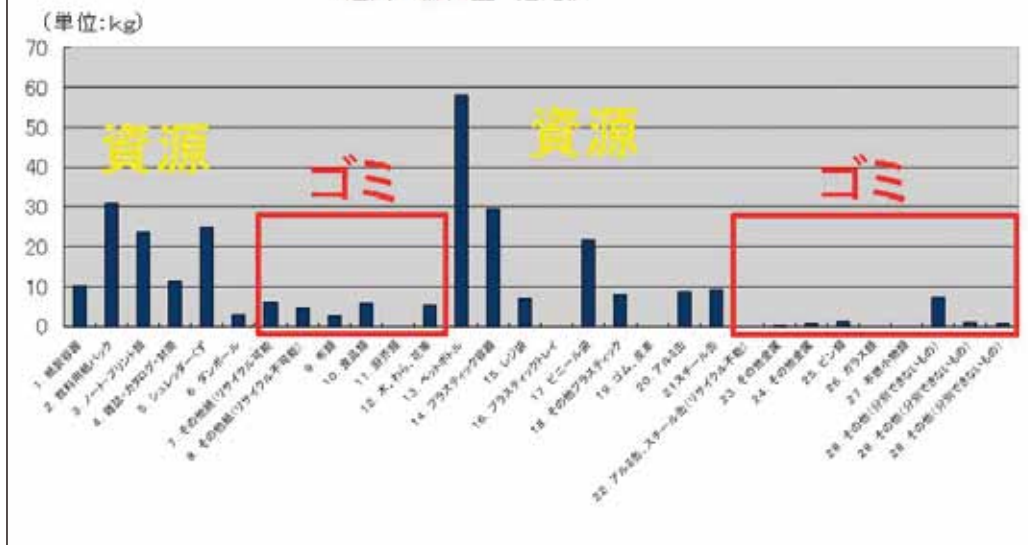




ていたそうですが、委員会ができたときにボランティア組織が全て解散してしまった」、「リサイクルに出している資源の重さを計測できていない」、「ゴミの排出量が減らなくなった」などがあげられます。このため、この先どのように活動を行っていくか考えるために、今回、大阪府堺市の「ゴミの組成分析」の方法をまねて「資源・ゴミの28分別」を行ってみました。その結果次のようなことが分かってきました。「現在の方法ではこれ以上ゴミを減らすことは難しい」、「リサイクルされている資源の中で最も重かったものは、

28分別の結果

1週間の排出量 推定値



ペットボトルや紙パックなどの飲料水の容器であった、「ゴミは確かに減っているが、リサイクルされているものの重さを加えると、捨てられているものの重さは以前とさほど変化していない」などです。現在、委員会ではその結果をもとに今後の方針を考えています。しかし、飲料水の容器など、現在リサイクルしているものを減らしていくと考えると、結局、私たちの日常生活習慣を変えなければなりません。その難しさに現在直面しています。

28分別から分かったこと

- ・ ペットボトルや紙パックなど、飲料水の容器(=資源)が一番多かった。

→ペットボトル1,958本、紙パック1,410箱、空き缶601本
=合計3,969本、一人当たり5.5本
1人が一週間で500円を飲み物に使うとすると、
つばさ全体で一週間で1,870万円が飲み物代に！

- ・ 次に多いのは、プラスチック容器やビニール袋など、食べ物の容器(=資源)

「プラ容器や可燃ゴミが一番多く、2番目がペットボトルだと予想していた。が、こちらが2番目で、可燃ゴミはとでも少なかった。

活動の環を上げよう 出場者からの提言

◎私達の学校では、ゴミ問題について取り組んでいます。ゴミ問題を解決するための一般的な手段としては、分別やリサイクル等があると思います。しかし今までの解決策では限界があります。私は新しい解決策として、「ゴミを出さないライフスタイル」に切り替えれば良いと思いましたが実現するのは難しいでしょう。そんな時アファンの森の方から「生き物の中でゴミを出すのは人間だけ。人間だけが循環の環から外れている」という話を聞いて私は「新しいライフスタイル」&「循環型社会」が真のゴミ問題解決策だと考えました。今後はこの新しい解決策をどうやって実行するか考えていきたいです。
(弘中初季・女・2年)

◎普段、何も考えずに捨てていたゴミが環境にどのような影響を与えているのか、わたしたちが学校で行っているゴミ分別がなぜ良いと評価されるのか、当たり前だからと考えなかったことを調べて数値を出すのは面白かったです。そうある事が当たり前だからと何も考えずに享受し行動を繰り返すのではなく、物事に興味を持って調べて良い方向に変えていけるようになりたいと思います。
(山口雪奈・2年・女)